
B'AI Global Forum

2021 年度 活動報告書

2022.05.23.

目次

ご挨拶-----	2
研究概要-----	3
プロジェクト-----	5
メディア表現とダイバーシティを抜本的に検討する会 (MeDi) -----	5
研究シリーズ「レジャーにおける格差・差別・スティグマ」-----	6
BAIRAL プロジェクト-----	6
書評会 B'AI Book Club-----	7
Trauma Reporting 研究会-----	8
授業・教育関係-----	9
共同研究-----	11
フィールドトリップ-----	11
研究の発表状況-----	12
その他の活動状況-----	14
別紙1. B'AI Global Forum の 2021 年度タイムライン-----	15
別紙2. B'AI Global Forum の 2021 年度メンバー-----	16

ご挨拶

B'AI グローバルフォーラムは 2020 年 7 月 30 日に発足し、1 年半が経ちました。

B'AI は平等社会とマイノリティの権利保障という社会目標を、AI が社会のあらゆる局面に浸透する時代に、いかにによりよく実現していくかを研究の主眼としています。この報告書は 2022 年 3 月末までの、2 年目の研究・教育活動をまとめたものです。

B'AI には東京大学の教員、研究員、大学院生に加え、国内外の他の組織に所属する人びとも参加しています。多様なメンバーが集まり、積極的に意見交換することで、新しい理解と価値を築いていきます。

2021 年度も新型コロナウイルスの影響で、前年度につづき対面での活動はできませんでしたが、その中でも、日本国内外の研究者や学生、ジャーナリストを中心に産学官民の交流機会を求めていきました。国境が閉ざされた中でもできる人的交流の方法を模索した昨年度は、デジタル技術を用いて築けるつながりを確認しあうことができましたし、また、長期間、デジタル空間での活動を強いられたからこそ得られた現場感覚と知見もありました。

今後、対面の活動が増えていく中で、デジタル技術により可能になった人的交流を記憶に留めながら、さまざまな人々の包摂を目指し AI と社会をめぐる議論を展開していきたいと考えております。

2022 年 5 月

B'AI Global Forum ディレクター 林香里

研究概要

B'AI Global Forum (ビー・エイアイ グローバル・フォーラム) とは

- AI 時代における真のジェンダー平等社会の実現とマイノリティの権利保障のための規範・倫理・実践研究を行うグループ。
- 東京大学とソフトバンクが共同で立ち上げた「Beyond AI 研究推進機構」の中の「AI と社会」部門に位置。
- 名称の「B'」には、AI 以前の言論・表現空間の歴史 (before)、AI 発展の背後の利害 (behind)、下部構造 (beneath) など、AI 等の技術を取り巻く歴史やそれを支える社会構造を多角的に考察していこうという意味が込められている。

運営チーム

- 林香里 東京大学大学院情報学環教授 (Director)
- 板津木綿子 東京大学大学院情報学環教授 (Associate Director)
- 矢口祐人 東京大学大学院情報学環教授 (Executive Manager)
- 伊藤たかね 東京大学大学院情報学環特任教授
- 久野愛 東京大学大学院情報学環准教授

活動拠点

- オフィス：B'AI Room (東京大学浅野キャンパス工学部 12 号館)
- 公式ウェブサイト：日本語版 <https://baiforum.jp>
英語版 <https://baiforum.jp/en/>

研究期間

- 予定期間：2020年7月30日～2030年3月31日
(本報告期間：2021年4月1日～2022年3月31日)

研究課題

- B'AI Global Forum は、ジェンダー平等社会とマイノリティの権利保障という社会目標を、AIが社会のあらゆる局面に浸透する時代に、いかにによりよく実現していくかを主眼としている。現代、経済格差やジェンダーや人種／民族などに基づく差別が止む気配はなく、課題は山積している。とりわけ、2020年新型コロナウイルスの感染拡大以降、政治、経済、文化など社会の活動において、デジタル技術を利用したコミュニケーションの比重が格段に増す中、経済格差やジェンダー、人種／民族などに基づく差別は、一層助長されていく例が世界各地で報告されている。このプロジェクトは、こうした社会問題の克服を目指し、市場原理ならびに一方的な科学技術の発達を最優先させてきた近代の諸制度や価値観を根本から問い直し、現状の社会の諸制度や組織構造の成り立ちを解明していく。さらに、AIなどの先端技術が、あらゆる人の生に貢献する技術となるよう、多様な分野からの研究者、実務家、ジャーナリスト、市民たちとともに、現状の課題を見出し、その解決を模索、提案していく。

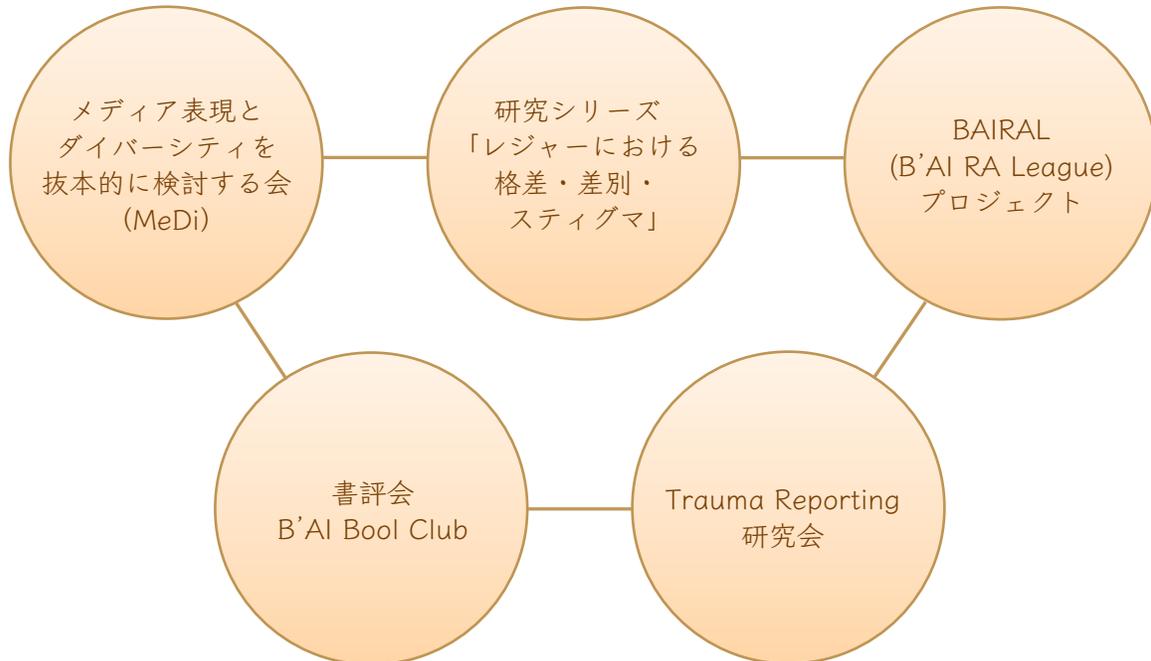
2つの目標

- AIをはじめとするデジタル情報技術と社会の関係を反省的かつ批判的に解明すること
- 言論・表現空間の公正性を実現すること

4つのテーマ

- AIをはじめ、デジタル情報技術による女性やマイノリティへの差別・暴力の解明
- AIをはじめ、デジタル情報技術による多様かつインクルーシヴなメディア表現空間の設計
- 若手研究者を中心としたAIをめぐる文理融合・産官学民協働グローバル・フォーラムの創設
- デジタル情報化時代の倫理の再考、およびそれに基づくインクルーシヴ教育の実践

プロジェクト



メディア表現とダイバーシティを抜本的に検討する会 (MeDi)

- MeDi は、テレビ、新聞、インターネットなど、さまざまな媒体上の公正な表現のあり方を考える産学共同研究グループである。メディアの表現は、日常生活の規範をつくるほどの影響力があるだけに、不適切な表現は人権問題にもなり、職場や学校での差別やいじめ、ハラスメントにつながっているという指摘もある。MeDi では、こうしたメディアの諸問題を指摘するとともに、世界の研究者や実務家と連携しながら、現代デジタル情報社会の積極的な可能性と今後の課題を模索する。（<https://www.medi-gender.com>）
- MeDi では、メディア現場で働く記者、ディレクター、編集者らを対象に、様々なテーマの報道におけるジェンダー表現の問題点やその改善策について実例を交えながらみんなで議論するワークショップを実施している。2021年度には、8月28日にワークショップ「オリンピック・パラリンピック報道とジェンダー表見を考える」が、12月5日にワークショップ「衆議院選挙報道とジェンダー表現を考える」が開催され、実務者と研究者の間で活発な問題意識の共有と意見交換が行われた。また、ワークショップで議論された内容に基づいて「MeDi からメディアへの提言」もまとめられ、MeDiのウェブサイトに掲載された。

研究シリーズ「レジャーにおける格差・差別・スティグマ」

- 今日、私たちのレジャー活動において、人工知能（AI）はすでに欠かせない技術になっており、私たちの社会との関わりや人間としての充足感の獲得に大きな影響を及ぼしている。しかし、余暇時間中のレジャー活動は、オンラインであれオフラインであれ、自由なレジャー活動を妨げる偏見やスティグマ、そして社会の差別の構造さえ映し出していることを忘れてはならない。このプロジェクトでは、私たちのレジャー活動のなかにいかに格差、偏見、スティグマが織り込まれていったかについて検証し、AI の技術活用がレジャーにおける格差、偏見、スティグマを知らず知らずのうちに再生産や強化しないよう、その批判眼を養っていく。
- 2021 年度には、レジャースタディーズ研究会・余暇ツーリズム学会との共催で、以下のように 2 回の研究会が開催された。
 - 2021 年 5 月 25 日「オンラインゲーム内の格差といじめ：グラディエーター化する e スポーツ選手」（講師：山形大学・加納寛子准教授）
 - 2021 年 7 月 2 日「アイドルと抑圧の構造：レジャー空間における規範と歪み」（講師：慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程・上岡麿奈氏）

BAIRAL プロジェクト

- BAIRAL (B'AI RA League) は、B'AI Global Forum の若手リサーチアシスタント (RA) による自主研究会で、人工知能 (AI) と社会の関係について、理論・実践の両面から検討している。AI は私たちの日常生活において様々な応用可能性を示している反面で、これまでには見られなかった複雑な権力やリスクの問題も生み出している。新たな技術が拡がりを見せる現代において、政治・社会・文化の問題を批判的に理解し、マイノリティを含む人間の尊厳や自由を議論するためには、個々の研究分野を超え、より多様な観点を取り入れる機会が必要だ。そこで、BAIRAL では、議論のための開かれたネットワークを構築すべく、毎月様々な研究・実践領域で活躍されているゲストスピーカーをお招きして、研究会を開催している。
- 2021 年度には、以下のように 8 回の研究会が開催された。
 - 第 1 回研究会「ろう児のための日本手話引き日本語基本動詞辞典の開発」（BBED ろう教育センター・大塚優氏、明晴学園・森田明氏、東京大学・安東明珠花氏）
 - 第 2 回研究会「AI の利用における倫理的課題について」（理化学研究所・荒井ひろみ氏）
 - 第 3 回研究会「クラウドソース型地理情報とダイバーシティ」（奈良女子大学人文科学系研究院・西村雄一郎教授）

- 第 4 回研究会「アルゴリズムによる判断はいつ差別だといえるのか？：規範理論を用いた哲学的検討」（東京大学大学院学際情報学府博士課程・前田春香氏）
- 第 5 回研究会「情報可視化技術とウェブ・AI への応用」（お茶の水女子大学・伊藤貴之教授）
- 第 6 回研究会「インターネットと科学研究」（金沢大学・一方井祐子准教授）
- 第 7 回研究会「AI キャラクターの倫理を考えるー『AI りんな』の事例を手掛かりにー」（rinna 株式会社 UX デザイナー・福嶋彰太氏、rinna 株式会社マーケティングマネージャー・千光寺 一輝氏）
- 第 8 回研究会「現場から見るデータジャーナリズムの可能性と課題」（スマートニュースメディア研究所・荻原和樹氏）

書評会 B'AI Book Club

- B'AI Book Club は、人工知能（AI）やアルゴリズムなどの情報テクノロジーを批判的な観点から考察した海外の文献を読み議論する書評会である。AI が人間社会の隅々まで浸透している今日、その技術が必ずしも中立公正に働き、その恩恵が全ての社会構成員に平等に行き渡るわけではないということが日本でも指摘されつつある。ただ、そのような問題意識が芽生え始めたのは海外の方が遥かに早く、それだけに議論も活発で研究実績も豊富に積み上げられている。そこで、まだ日本に紹介されていない文献を読むことで海外の研究動向を把握するとともに、AI の開発・利用に潜む権力の問題、科学技術に内在するマスキュリティの問題などについて一緒に考え勉強する場をつくるべく、2021 年度からの新たなプロジェクトとして B'AI Book Club を立ち上げた。本の読み方としては、単純に書かれている内容を理解して終わるのではなく、著者のバックグラウンドや本が書かれた社会的文脈、その本の当該研究分野での位置づけなどを総合的に検討しつつ批判的に読み込むため、「書評」という形を取っている。
- 2021 年度には、以下のように 9 回の書評会が開催された。
 - 第 1 回書評会：Yarden Katz (2020) *Artificial Whiteness: Politics and Ideology in Artificial Intelligence*. New York: Columbia University Press. （評者：東京大学大学院情報学環・矢口祐人教授）
 - 第 2 回書評会：Rana el Kaliouby and Carol Colman (2020) *Girl Decoded: A Scientist's Quest to Reclaim Our Humanity by Bringing Emotional Intelligence to Technology*. New York: Currency. （評者：東京大学大学院情報学環 特任研究員・ノジュウン）

- 第 3 回書評会：Kai-Fu Lee (2018) *AI Superpowers: China, Silicon Valley, and the New World Order*. Boston, MA: Houghton Mifflin Harcourt. (評者：東京大学大学院学際情報学府博士課程・イムドンウ)
- 第 4 回書評会：Francesco Marconi (2020) *Newsmakers: Artificial Intelligence and the Future of Journalism*. New York: Columbia University Press. (評者：東京大学大学院学際情報学府博士課程・田中瑛)
- 第 5 回書評会：Meredith Broussard (2018) *Artificial Unintelligence: How Computers Misunderstand the World*. Cambridge, MA: The MIT Press. (評者：東京大学大学院情報学環 特任研究員・金佳榮)
- 第 6 回書評会：Safiya Umoja Noble (2018) *Algorithms of Oppression: How Search Engines Reinforce Racism*. New York: New York University Press. (評者：東京大学大学院学際情報学府博士課程・加藤大樹)
- 第 7 回書評会：Jennifer Robertson (2018) *Robo sapiens japonicus: Robots, Gender, Family, and the Japanese Nation*. Oakland, California: University of California Press. (評者：東京大学大学院情報学環・板津木綿子教授)
- 第 8 回書評会：Kate Crawford (2021) *Atlas of AI: Power, Politics, and the Planetary Costs of Artificial Intelligence*. New Haven, CT: Yale University Press. (評者：東京大学大学院情報学環・久野愛准教授)
- 第 9 回書評会：Karen Lumsden and Emily Harmer (Eds.) (2019) *Online Othering: Exploring Digital Violence and Discrimination on the Web*. Cham, Switzerland: Palgrave Macmillan. (評者：東京大学大学院情報学環 特任研究員・佐野敦子)

Trauma Reporting 研究会

- Trauma Reporting 研究会は、公正な言論空間を作っていくための取り組みの一環として 2021 年度に立ち上げた新プロジェクトである。ジャーナリストで東京大学大学院情報学環特任教授の河原理子氏が座長を務めるこの研究会では、取材経験者やジャーナリズム研究者らが集まり、事件事故や(性)暴力の被害者、災害の被災者、戦争や紛争の生存者など、心身にダメージを負った傷つきやすい人たちの話を取材し社会に伝える際に必要な知識を学び、課題を共有するとともに新たな道筋を探っていく。
- 2021 年度には、英 BBC の Jo Healey さんがまとめた *Trauma Reporting: A Journalist's Guide to Covering Sensitive Stories* (Routledge, 2019) を読んで議論する読書会を 8 回開催した。

授業・教育関係

授業

- 2021 年度 S セメスターに、前期課程生を対象とした主題科目である全学自由ゼミ「Artificial Intelligence and Society」を開講した。板津木綿子教授と矢口祐人教授が授業を進行し、東京大学ニューロインテリジェンス国際研究機構の長井志江特任教授、東京藝術大学准教授のスプツニ子!氏、一般社団法人 Waffle の共同創立者斎藤明日美氏をゲストスピーカーに迎えた他、B'AI Global Forum からは林香里教授、矢口祐人教授、久野愛准教授が講義を行なった。授業を履修した 9 名の学生のエッセイが B'AI のウェブサイトに掲載されている。
<https://baiforum.jp/projects/ai-and-society-2021/>
- 2021 年 7 月 5 日～8 月 6 日、矢口祐人教授が、東京大学 Global Unit Courses（東大生を含めて全世界から履修者 21 名）の Writing About Japan にて、AI and representation of Japan というテーマの授業を行った。
- 2021 年 8 月 18～31 日、学部生を対象としたサマープログラム「Artificial Intelligence and Social Justice」を実施した。板津木綿子教授がプログラムの全体企画と進行を担当し、海外から下記 3 名の専門家をゲストスピーカーとして招き講演をいただいた。講演は一般公開し、一部は後日 B'AI の YouTube チャンネルにも掲載した。
 - Ana Beduschi 氏（Exeter University 准教授）“Artificial Intelligence and Digital Technologies at the Border: Migration and Human Rights Considerations”
 - Phebe Vayanos 氏（University of Southern California, Center for Artificial Intelligence in Society, Associate Director）“Towards Robust, Interpretable, and Fair Social and Public Health Interventions”
 - Ivana Bartoletti 氏（Women Leading in AI Network 共同創立者）“Power, Politics, & AI: Building a Better Future”
- 東京大学国際総合力認定制度を通じて 2021 年 8 月 23 日～29 日に実施された上海交通大学と東京大学合同の「上海交通大学第二回中日青年エリートプログラム（2021 年）」内に、「AI と社会」をテーマにした学術交流セッションを設置し、特任研究員の佐野敦子が講義を行った。
- 東京大学国際総合力認定制度を通じて 2022 年 2 月 9 日に実施されたソウル国立大学と東京大学合同の「オンラインウィンタープログラム」内に、「AI とポピュラーカルチャー」をテーマにした学術交流セッションを設置し、板津木綿子教授が講義を行った。

その他の教育関係

- 2021年4月、アメリカで発足したデータサイエンスの啓蒙団体 The Carpentries との共催で、ハンズオン型ワークショップ「Rによるデータ解析入門」を開催した。東京大学の大学院生と研究員を対象にオンラインにて全5回実施されたこのワークショップでは、The Carpentries のインストラクターらによって統計分析ツール R の初心者向けレクチャーが行われた。
- 2021年5月28日、久野愛准教授による講演会「歴史から読み解く味覚と視覚－消費主義社会の台頭と『エスティクス』の変遷」をオンラインにて開催した。久野准教授の講演の後、デザイン界の第一人者として知られる東京大学大学院情報学環/生産技術研究所の山中俊治教授にコメントをいただき、登壇者二人とモデレーターを務めた林香里教授の三人で、オーディエンスからの質問を交えながら科学技術の進歩と社会への応用、また社会への影響について議論を行った。
- 2021年6月9日、ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ Institute for Creative and Cultural Entrepreneurship が主催したオンラインセミナー「AI and Society: New Media Literacy and Politics」にて、林香里教授が「Challenges for a Gender-equal Society in the AI Era」というテーマで、水越伸教授が「New Literacy for Media Infrastructure and 'Media Biotope」というテーマで発表を行なった。
- 2021年10月1日、東京都中野区子ども教育部育成活動推進課主催の「ハイティーン会議」の取材に板津木綿子教授が応じた。中野区在住・在学の中高生が集まってテーマを決め、そのテーマに沿った専門・関係機関に取材を行う「ハイティーン会議」では、2021年度テーマの一つである AI について板津木綿子教授取材した。その2021年度「ハイティーン会議」報告書は中野区ウェブサイトに掲載されている。
- 2022年1月17日、Beyond AI 研究推進機構の公開セミナー、第4回サイエンスカフェを B'AI Global Forum が担当した。ゲストスピーカーとしてオース大学講師の Shuang Lu Frost 氏、サイエンスコミュニケーターとして情報システム研究機構国立遺伝学研究所の広報室長、高祖歩美氏を招き、B'AI からは久野愛准教授が登壇して「Social Imaginary of AI in East Asia」というテーマで議論を行った。
- 2022年2月16日、オンラインで開催された秋田大学教育文化学部附属学校学部共同委員会研修会で、伊藤たかね教授が「大学におけるダイバーシティ教育」をテーマに講演を行った。

共同研究

- 東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構の横山広美教授研究室と共同で、「AI利用の意識に関する4か国調査」を実施している。AIの研究・開発が進み、様々な意思決定プロセスに導入されつつある中、AIが不公正を拡大しないよう、AIの研究者や開発者は平等意識をもつことが求められる。本研究では、日本・アメリカ・ドイツ・韓国の一般市民を対象に、性別・障害・性的指向・移民に対する平等意識が、AI利用の問題意識とどのように関係するかを調べる。2021年度にデータ収集が完了し、2022年2月1日に開催された第23回 Beyond AI 研究セミナーにて、横山教授と金沢大学の一方井祐子准教授が中間報告を行った。研究の最終結果は2022年度中に発表される予定である。



フィールドトリップ

AI・人工知能 EXPO

- 2021年10月29日、特任研究員の佐野敦子と金佳榮が、千葉県幕張メッセで開催された2021年度第2回 AI・人工知能 EXPO を訪問した。ビジネス現場や研究機関の最新動向を把握するとともに、様々なAI活用の事例を直ちに知ることができた。



ダイアログ・ミュージアム「対話の森」

- 2022年3月30日、エンターテインメントとして楽しみながらダイバーシティを体感できる日本初のミュージアムとして知られる「ダイアログ・ダイバーシティミュージアム『対話の森』」を訪問した。視覚障がい者の案内で暗闇の中を旅する「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」と、ろう者の案内で音のない世界でのコミュニケーションを楽しむ「ダイアログ・イン・サイレンス」を体験し、ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン代表の志村真介氏による講演「都市の中に暗闇や静寂をつくる——ダイバーシティ&イノベーションから学ぶこと」を聴講した。



研究の発表状況

書籍

- 林香里（2021）「メディア研究における『ダイバーシティ』の現在」岩淵功一編『多様性との対話 ダイバーシティ推進が見えなくするもの』青弓社、pp.115-123。
- 江間有沙（2021）『絵と図でわかる AI と社会—未来をひらく技術とのかかわり方』技術評論社
- 田中東子編（2021）『ガールズ・メディア・スタディーズ』北樹出版
- 治部れんげ（2022）『きめつけないで！女らしさ男らしさ』全3巻（第1巻「女の子が意見をはっきり言うなんて!？」、第2巻「泣くのは男らしくない!？」、第3巻「校長先生はほとんど男の人!？」）汐文社

論文

- 板津木綿子（2021）「レジャー研究と人工知能の交差領域—論点と可能性」『余暇ツーリズム学会誌』第8号、pp.43-52。（余暇ツーリズム学会の学会賞（学術部門 論文賞）受賞）
- [Kaori Hayashi](#), Pablo J. Boczkowski, Neta Kligler-Vilenchik, Eugenia Mitchelstein, Keren Tenenboim-Weinblatt & Mikko Villi (2021) Gendered power relations in the digital age: an analysis of Japanese women's media choice and use within a global context, *Feminist Media Studies*, DOI: 10.1080/14680777.2021.1998183
- 矢口祐人（2021）「構造と差別—Black Lives Matter から考える日本のキャンパス」奈良女子大学『人権問題リブレット』pp.43-64。
- 田中東子（2021）「フェミニズムの複雑な様相をどのように読み解くのか？」哲学若手研究者フォーラム編『哲学の探求』第48号、pp.23-40。
- 田中東子（2021）「娯楽と恥辱とルッキズム」『現代思想（特集＝ルッキズムを考える）』vol.49(13)、pp.107-116。
- 佐野敦子（2021）「メルケル政権下の男女平等報告書とドイツ初の男女平等戦略—時代の転機を次の社会のデザインにつなげるには—」立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科『21世紀社会デザイン研究』No.19、pp.15-29。
- 佐野敦子（2021）「デジタル変容が向かう社会を想像して—アラン・コルバンを手がかりに—」社会デザイン学会『Social Design Review』vol.12、pp.111-116。
- [Shin Mizukoshi](#), Jerry Jacques, Maxime Verbesselt, Keumhee Ahn, Chang Geun Oh, Hyeon-Seon Jeong. Social Networks for the Next Media Literacy. 『情報学研究（東京大学大学院情報学環紀要）』（101）pp.1-37。

口頭発表（学会、シンポジウムなど）

- Osamu Sakura (2021) “Variety in Human Attitudes Toward Algorithm Bias and Smart Assistants”, The 26th AIP Open Seminar: Talks by Science, Technology and Society Team, May 26, 2021.
- 石川開、水上拓哉、戸田聡一郎、猪口智広、前田春香、福住伸一、佐倉統、伊藤宏比古、津田健一郎、早矢仕晃章、永合由美子、大澤幸生（2021）「人の心と AI の相互作用モデルとその社会実装デザインへの応用」オーガナイズドセッション『未踏データによる AI 社会デザインと倫理的課題』2021 年度人工知能学会全国大会（第 35 回）、2021/6/8。
- Kaori Hayashi (2021) “Challenges for a Gender-Equal Society in the AI Era”, Online Seminar “AI and Society: New Media Literacy and Politics” Organized by the Institute for Creative & Cultural Entrepreneurship, Goldsmiths, University of London, June 9, 2021.
- Shin Mizukoshi (2021) “New Literacy for Media Infrastructure and Media Biotope”, Online Seminar “AI and Society: New Media Literacy and Politics” Organized by the Institute for Creative & Cultural Entrepreneurship, Goldsmiths, University of London, June 9, 2021.
- 矢口祐人（2021）「暴力と非暴力のアメリカ」第 29 回東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻主催公開シンポジウム「いま『暴力』を考える」2021/6/26。
- Yuko Itatsu (2021) “Race and gender in Japanese advertisement: Does Japan have any chance in improving its gender gap?” One Asia Program, University of Eastern Finland, September 3, 2021.
- 林香里（2021）「女性と東大 いま、“インクルーシブなキャンパス”を考える」第 12 回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム基調講演、2021/9/17。
- Kaori Hayashi (2021) “Toward a Gender-Equal Society in the AI Era: A Distant Goal for Japan?” Symposium at the Deutsches Institut fuer Japanstudien “Governance in the digital age” September 30, 2021.
- 板津木綿子（2021）「シリアスレジャーとしての市民活動：LGBT 当事者の証言から」余暇ソサエティ学会、2021/10/30。
- 加藤大樹（2021）「ネット右派の公衆的相互作用—右派ウェブサイトにて媒介された話題の共有」第 94 回 日本社会学会大会、2021/11/13。
- 板津木綿子（2021）「人種差別というパンデミック」（基調講演）日本広告審査機構主催 JARO の会<表現> 広告表現、ステレオタイプの向こう側へ：「人種的文化的ステレオタイプを考える」2021/11/17。

その他の活動状況

今後の研究のための対話

- 2021年5月29日、板津木綿子教授が北米や日本でコンピューター・サイエンスの技術者として働いている日本人女性と意見交換を行った。日本における理数系教育やジェンダーマイノリティの労働環境について、日米比較の観点から示唆をいただいた。
- 身体障がい児の学習のためのAI活用を調査する目的で、ろう児に仮想現実を体験する機器（VRヘッドセット）を使用させ、その体験について実態調査を行うための準備を開始した。聴力に障がいがあることによる影響や仮想現実機器を学習に取り込むことのメリットなどについて検討することが狙いである。本件について、2021年7月15日に、板津木綿子教授と安東明珠花氏（東京大学総合文化研究科博士課程・明晴学園教員）が打ち合わせを行った。
- チューリヒ大学（スイス）コミュニケーション・メディア研究科で「AIのイメージ」に関する国際比較研究を始める予定の研究者たちと意見交換した。

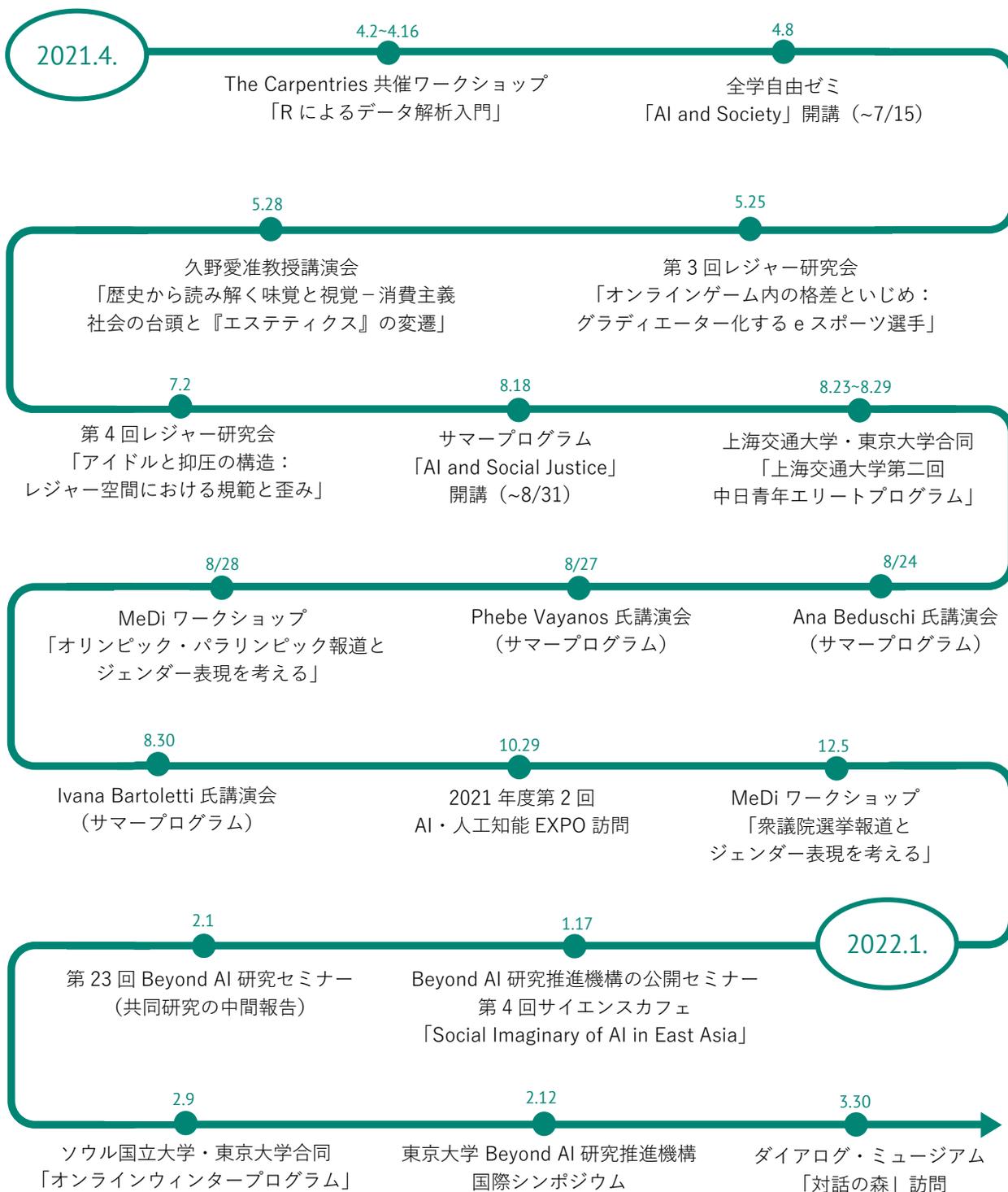
研究拠点の整備

- 2021年2月にオープンしたB'AI Global Forumの活動拠点B'AI Room（バイルーム）に、図書室「バイブラリー（B'AI+Library）」を設置した。AIやジェンダーに関する和書と洋書を豊富に備えている。



B'AI Global Forum の 2021 年度タイムライン

(※月 1 回ペースで開催される BAIRAL、B'AI Book Club、Trauma Reporting 研究会は省略)



別紙 2

B'AI Global Forum の 2021 年度メンバー (2022 年 1 月現在)

役 割	氏 名	所属機関・部局・役職	備考
運営チーム	林香里	東京大学大学院情報学環・教授	研究リーダー
	板津木綿子	東京大学大学院情報学環・教授	副研究リーダー
	矢口祐人	東京大学大学院情報学環・教授	プロジェクト統括・ 管理・研究分担者
	伊藤たかね	東京大学大学院情報学環・特任教授	
	久野愛	東京大学大学院情報学環・准教授	
研究分担者	江間有沙	東京大学未来ビジョンセンター・准教授	
	佐倉統	東京大学大学院情報学環・教授	
	水越伸	東京大学大学院情報学環・教授	
	河原理子	東京大学大学院情報学環・特任教授	Trauma Reporting 研究会座長、ジャーナリスト
	越塚登	東京大学大学院情報学環・教授	
	Miles Pennington	東京大学生産技術研究所・教授	
	大西晶子	東京大学相談支援研究開発センター・准教授	
	田中東子	東京大学大学院情報学環・客員教授	MeDi*、大妻女子大学文学部教授
	横山広美	東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構・教授	
	高梨直紘	東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム室・特任准教授	
	ティルマン・ハートウィグ	東京大学知の物理学研究センター・助教	
	特任研究員	金カヨン	東京大学大学院情報学環・特任研究員
ノ・ジュウン		東京大学大学院情報学環・特任研究員	
佐野敦子		東京大学大学院情報学環・特任研究員	
研究員	小島慶子	東京大学大学院情報学環・客員研究員	MeDi、エッセイスト
	治部れんげ	東京大学大学院情報学環・客員研究員	MeDi、ジャーナリスト
	山本恵子	東京大学大学院情報学環・客員研究員	MeDi、NHK 名古屋拠点放送局報道部副部長
	白河桃子	東京大学大学院情報学環・客員研究員	MeDi、ジャーナリスト 昭和女子大学客員教授

	李美淑	東京大学大学院情報学環・客員研究員	MeDi、立教大学グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター助教
	章蓉	東京大学大学院情報学環・客員研究員	同済大学浙江学院社会科学部研究員
学外協力者	浜田敬子	Business Insider Japan 統括編集長	MeDi
	三浦まり	上智大学法学部教授	SAYFT**
	三品由紀子	電気通信大学准教授	
	一方井祐子	金沢大学人間社会研究域人間科学系地域創造学類・准教授	
リサーチ・アシスタント	田中瑛	東京大学大学院学際情報学府・博士課程	
	Lim Dongwoo	東京大学大学院学際情報学府・博士課程	
	加藤大樹	東京大学大学院学際情報学府・博士課程	
院生メンバー	スエダ・マシュー	東京大学大学院学際情報学府・修士課程	
学術支援スタッフ	五十田みどり	東京大学大学院情報学環・派遣職員	

*メディア表現とダイバーシティを抜本的に検討する会

** Safe Campus Youth Network Faculty Team